

インフォメーション・コーナー

会 告

○研究部会長の交代について	76
○平成 29 年度農業農村工学会賞候補の推薦について (再) 締切 10 月 31 日	76
○平成 28 年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について (再) 申請締切 9 月 16 日	76
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	77
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	77
○平成 29 年の学会誌表紙写真の募集 夏季締切 9 月 30 日	78
○「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	78
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿と 2016 年 7 月からの新たな編集体制と編集事務局のスタートについて	79
○土壌物理研究部会第 55 回研究集会の開催について (第 2 報) ⑧ 10 月 30 日開催	80
○第 26 回農村道路研究部会研究集会・現地研修会の開催について ⑧ 参加申込締切 10 月 7 日	81
○第 37 回農地保全研究部会研究集会および現地研修会の開催について (第 2 報) ⑧ 参加申込締切 10 月 31 日	81
○農業ワールド 2016 の開催について 10 月 12~14 日開催	82
農業農村工学会論文集内容紹介	83
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム (一般参加可) 一覧	85
受入れ図書	86
文献目録	86
学会記事	89

第 84 巻第 10 号予定

展望：佐藤政良

小特集：電力料金の変動を見据えた土地改良

- ▷報文：電力料金の変動を踏まえた農業農村整備事業での対応：原田正人ほか
- ▷報文：インバータや PLC (シーケンサ) を用いたポンプ制御による省エネ対策：鈴木 智
- ▷報文：自然をいただく「発電する用水路」：波能寿子
- ▷報文：節水・節電のための圃場とポンプ場が連携した灌漑配水システムの試作：中矢哲郎ほか
- ▷報文：滋賀県の農業水利施設に係る節水およびエネルギー対策について：森川 学
- ▷報文：地下水で灌漑される火山灰土水田の過大な電力消費の実態：松本宜大ほか

技術リポート

- 北海道支部：農業用フィルダムにおける洪水吐の改修事例：山本将礼ほか
- 東北支部：大畑川頭首工魚道改修工事の効果検証：坂本宗祐ほか
- 関東支部：白山甚兵衛機場による循環灌漑の水質保全効果の検証：柴田奈緒
- 京都支部：ブロック積水路の機能診断および評価事例：竹内宏太ほか
- 中国四国支部：施設園芸の用水確保に向けた地下水調査：森澤潤司
- 九州沖縄支部：馬代頭首工の改修事例：大工雄生

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成28年10月20, 21日	九州沖縄支部	平成28年度支部大会 Ⓟ	—	鹿児島市	84巻4,7号
平成28年10月27, 28日	中国四国支部	第71回支部講演会・第40回地方講習会 Ⓟ	—	松山市	84巻5,6,7号
平成28年10月30日	土壌物理研究部会	第55回研究集会 Ⓟ	農地を探索するものたち—土壌物理の若手最前線—	京都府	84巻8,9号
平成28年10月31日, 11月1日	農村道路研究部会	第26回研究集会・現地研修会 Ⓟ	農道管理主体としての市長村について	青森市ほか	84巻9号
平成28年11月9日	関東支部	第67回支部大会 Ⓟ	—	長野市	84巻6,7号
平成28年11月16, 17日	京都支部	第73回研究発表会 Ⓟ	—	大阪市	84巻4,6号
平成28年11月17, 18日	農地保全研究部会	第37回研究集会・現地研修会 Ⓟ	農地保全と自然災害	高知市ほか	84巻8,9号
平成28年11月29日	北海道支部	第39回研修会 Ⓟ	—	札幌市	—
平成28年11月30日	北海道支部	第65回研究発表会 Ⓟ	—	札幌市	—
平成29年1月25日	北海道支部	支部講習会 Ⓟ	—	札幌市	—

研究部会長の交代について

平成28年7月1日付で下記研究部会長が交代しました。

記

水文・水環境研究部会

新部会長 堀野 治彦 (大阪府立大学大学院生命環境科学研究科)

前部会長 加藤 亮

平成29年度農業農村工学会賞候補の推薦について (再)

平成29年度の農業農村工学会賞(上野賞, 沢田賞を除く)を、本誌第84巻第6号94~95ページ掲載の募集要項に則って、推薦書によりご推薦ください。

締切は、平成28年10月末日です。推薦書様式および授賞規程は学会ホームページをご参照ください。

平成28年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について (再)

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60万円程度(原則1件20万円以内)です。

本年度の申請締切は平成28年9月16日(金)です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式(末尾参照)で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あてにお申し込みください。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は必要事項を記入の上、「戦略的研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。

2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容(申請の意義、準備の状況、将来の展望など)を検討して、助成するグループと金額を決定する。なお、この決定内容は学会長に報告する。

3. 助成：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先する。

4. 助成対象：申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究するこ

とが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。

- (ロ)「研究申請書作成グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員(本学会員以外も可)は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。

5. 活動報告:助成金を受領した「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登

録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

締切:平成28年9月16日(金)

申込先:研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail:suido@jsidre.or.jp

必要記載事項:

- (1) WG名(または部会名) (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名(仮)
- (5) 研究の目的と内容(500字程度)
- (6) 研究資金申請応募先(予定)

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行:みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替:00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学会員であり、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非CPD通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信(事前にWeb利用登録が必要)

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

(例:学会誌9月号掲載の問題は10月末日が解答期限)

5. 取得できるCPD単位

10問正解で2cpdを、7~9問正解で1.5cpdを自動登録

(正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません。)

6. 自動登録の時期

取得したCPD単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

平成 29 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成 29 年発行の学会誌も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募ください。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連続と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。人々の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで、それらは、農村地域のみならず、都市の景観の中にも見つけることができるでしょう。

農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含み景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

2. 対象巻号 学会誌第 85 巻（平成 29 年 1～12 月号）

3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（四つ切りワイド、A4 サイズも含まれます）。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。この場合の画像データ量は一点につき 20MB 以下とし、形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 夏季 平成 28 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限りです。

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 85 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成 29 年度全国大会会場でパネル展示します。

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金（1 点につき 3 万円）をお支払いします。また、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History（表紙写真由来）」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用权・出版権

採用作品の使用权および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名称）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

学会誌 84, 85 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ		要 旨 締 切 (A 4 判 1,500 字以内)
84 巻 11 号	都市農業の価値を活かす農業農村整備の多様なアプローチ (仮)	公募終了
12 号	新技術の導入や創意工夫により各種課題を解決に導く技術力 (仮)	公募終了
85 巻 1 号	新たな土地改良長期計画を考える (仮)	9 月 15 日
2 号	海外農業農村開発協力のこれまでとこれから (仮)	公募なし
3 号	ダム保全技術の最前線 (仮)	11 月 15 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
(公社) 農業農村工学会
農業農村工学会誌企画・編集委員会あて
TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494
E-mail : henshu@jsidre.or.jp

85 巻 1 号テーマ「新たな土地改良長期計画を考える」(仮)

平成 24 年 3 月に現行の土地改良長期計画が策定されて以降、農地の大区画化などによる農業の体質強化や、農業水利施設の戦略的な保全管理などを通じた食料供給力の確保は着実に進みつつあります。一方、新たな食料・農業・農村基本計画(平成 27 年 3 月)の策定、TPP 交渉の大筋合意など、農業・農村を取り巻く情勢が大きく変化したこと、計画期間を 1 年前倒しし、新たな土地改良長期計画の策定に向けた検討がなされています。

新たな土地改良長期計画(案)*では、「個性豊かな活力ある農業・農村の実現」を目指して、「担い手の体質強化」、「産地収益力の向上」、「農村協働力と美しい農村の再生・創造」、「快適で

豊かな資源循環型社会の構築」、「農業水利施設の戦略的な保全管理と機能強化」、「災害に対する地域の防災・減災力の強化」の 6 つの政策目標が掲げられており、今後 5 カ年の計画期間の中で、これらの政策目標の着実な達成に向けた土地改良事業の重点的・効果的な実施を図ることとしております。

そこで、本小特集では、土地改良長期計画で掲げられた 6 つの政策目標の実現のために取り組んでいる先導的な基盤技術、実用的な技術、民間で独自に開発している技術、他分野の応用による新技術などの報文を広く募集します。

* http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/nousin/bukai/h28_2/attach/pdf/index-4.pdf

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿と

2016 年 7 月からの新たな編集体制と編集事務局のスタートについて

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES)では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)

- ⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用(田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策(農村振興, 条件不利地の支援策など)

また、世界 14 カ国から Editor (20 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

一方、2016 年 7 月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

- ・ Editor-in-Chief : Dr. Takao MASUMOTO (Japan)
Institute for Rural Engineering, NARO (National Agricultural Research Organization), Tsukuba, Japan
- ・ Editors 14 カ国から 20 名
- ・ Advisory Editing Board 29 名
- ・ Chief Management Editor

Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Rep. of China

・ **Managing Editors****Dr. Jin-Yong CHOI**

Institute of Green-Bio Science and Technology, Seoul
National University, Korea

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Rep. of China

Mr. Nobuyoshi FUJIWARA

Rural Development Division, Japan International
Research Center for Agricultural Science (JIRCAS),
Japan

Dr. Kimihito NAKAMURA

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan

Dr. Andrew WHITAKER

Graduate School of Science and Technology, Niigata
University, Japan

編集事務局 (2016年7月から2018年6月まで) :

・ **Dr. Yu-Pin LIN**

Distinguished Professor, Ph.D.

Department of Bioenvironmental Systems, Engineering,
National Taiwan University

No.1, Sec. 4, Roosevelt Road, Taipei 10617, Taiwan,
Rep. of China

TEL : + 886-2-3366-3467, + 886-2-2368-6980

FAX : + 886-2-2368-6980

E-mail : yplin@ntu.edu.tw

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/>に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年4回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員 (院生含む) 8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度からの購読はパスワードによるWeb上での閲覧になります。

冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局

土壌物理研究部会第55回研究集会の開催について (第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 主催 農業農村工学会土壌物理研究部会 (仮題) 農研機構 吉田武郎
共催 土壌物理学会 14:05~15:00 総合討論
2. テーマ 農地を探究するものたち 司会: 西村直正 (岐阜大学応用生物科学部)
—土壌物理の若手最前線— 15:00 閉会
3. 日時 平成28年10月30日(日) 9:00~15:00
4. 場所 京都大学吉田キャンパス 農学部総合館 W100
<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/>
http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r_n.html
5. 参加費 1,500円 (要旨集代, ただし学生は無料)
6. プログラム
 - 9:00 受付
 - 9:50 開会
総合司会: 岩間憲治 (滋賀県立大学環境科学部)
 - 10:00~11:00 「地中灌漑における土壌水分分布と消費水量の評価」(仮題)
九州大学博士課程 濱田耕佑
 - 11:05~12:05 「斜面における土壌パイプ流の発生条件と降雨流出への役割」(仮題)
東京大学博士課程 山崎琢平
 - 12:05~13:00 (昼食; 詳細は別途ご案内します)
 - 13:00~14:00 「流域スケールでの農地・水循環モデル」
7. その他
 - ・宿の予約は個別に手続きをさせていただきますようお願いいたします。混み合うことが予想されています。できるかぎり早めの予約手続きをお願いいたします。
 - ・前日の10月29日(土曜日), 同所にて「土壌物理学会シンポジウム」を開催予定です。情報交換会は前日開催の土壌物理学会と共催します。詳しくは土壌物理学会ホームページ (<https://js-soilphysics.com/conf>) をご覧ください。
 - ・都合により一部変更することがあります。
8. 問合せ先
 - 農業農村工学会土壌物理研究部会事務局
〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577
三重大学大学院生物資源学専攻 共生環境学専攻
農業農村工学講座農地工学研究室
成岡 市 (なりおか はじめ)
TEL : 059-231-9574 E-mail : narioka@bio.mie-u.ac.jp
<http://www.jsidre.or.jp/dojyou/>

第 26 回農村道路研究部会研究集会・現地研修会の開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農村道路研究部会では、以下のとおり第 26 回研究集会および現地研修会を開催することといたしましたので、ご案内いたします。多くの皆様の参加をお待ちしております。

1. 特定課題 農道管理主体としての市町村について

2. 期 日 平成 28 年 10 月 31 日 (月) 研究集会
平成 28 年 11 月 1 日 (火) 現地研修会

3. 研究集会

(1) 日時：10 月 31 日 (月) 13：00～17：00
(受付開始 12：30)

(2) 会場：青森県観光物産館アスパム 6 階 八甲田
〒030-0803 青森県青森市安方 1-1-40
TEL：017-735-5311

(3) 発表内容：①招待論文：特定課題
②研究論文：特定課題および農村道路に関
わる研究課題
③技術報文：農村道路に関わる計画・調査
・施工の自由課題

(4) 参加費：4,000 円/人

4. 現地研修会

(1) 日時：11 月 1 日 (火) 8：30～17：00 (予定)

(2) 研修地：青森県全域の農道工保全対策等事業現場
アスパム→西海岸 2 期地区 (深浦町)：広域農
道・橋梁新設→昼食 (五所川原市)→鳴瀬地区
(弘前市)：橋梁保全対策→野沢 2 期地区 (青森
市)：ホタテ貝殻入 As 舗装→青森空港 (16：
00 頃到着), JR 新青森駅 (16：30 頃到着予
定), JR 青森駅 (16：40 頃到着予定) にて解散

(3) 参加費：2,000 円/人 (昼食代 1,500 円が別途必要とな
ります。)

5. 発表申込み

(1) 研究集会で研究論文、技術報文を発表するためには、発
表申込書の提出が必要になります。発表申込書および原
稿作成要領は、農村道路研究部会のホームページからダ
ウンロードすることができます。

(2) 発表申込みは、発表申込書に必要事項を記入の上、E-
mail に添付して申込先に送信してください。発表申込み
を行う際のメールの表題は「農村道路研究部会研究集会
の発表申込み」としてください。

(3) 発表申込締切：平成 28 年 9 月 16 日 (金)
原稿提出締切：平成 28 年 10 月 7 日 (金)

6. 参加申込み

(1) 参加申込みは、参加申込書を農村道路研究部会のホー
ムページからダウンロードし、必要事項を記入の上、E-
mail に添付して申込先に送信してください。参加申込み
を行う際のメールの表題は「農村道路研究部会研究集会
の参加申込み」としてください。

(2) 参加申込締切：平成 28 年 10 月 7 日 (金)

(3) 参加費は、原則として参加申込みと同時に以下の銀行
口座に納金 (振込手数料は参加者でご負担) 願います。や
むを得ない理由がある場合には現地支払い、事後振込み
も可能ですので、参加申込みの際に事務局までご連絡く
ださい。

銀行名：ゆうちょ銀行 ○一八支店 (店番号 018)

口座番号：普通預金 7400643

口座名：農村道路研究部会

7. 発表・参加申込先および原稿提出先

同志社女子大学生生活科学部 齋藤朱未
〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入
TEL&FAX：075-251-4244

E-mail：asaito@dwc.doshisha.ac.jp

8. 部会ホームページ

農村道路研究部会のホームページは、以下の URL です。

[http://www.nodai.ac.jp/eng/original/hyse/JSIDRE/
AnnualMeeting.html](http://www.nodai.ac.jp/eng/original/hyse/JSIDRE/AnnualMeeting.html)

また、農業農村工学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/>) の中の「研究部会」→「農村道路研究部会」からでも閲覧することができます。

9. 宿 泊 各自で手配ください。

第 37 回農地保全研究部会研究集会および現地研修会の開催について (第 2 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 主 催 農業農村工学会農地保全研究部会

後 援 農林水産省中国四国農政局, 高知県, 高知大学

2. 日 時

・研究集会 平成 28 年 11 月 17 日 (木) 10：00～17：00
(受付 9：30～)

・情報交換会 平成 28 年 11 月 17 日 (木) 17：30～19：30

・現地研修会 平成 28 年 11 月 18 日 (金) 9：00～17：00

3. 場 所

・研究集会 高知大学メディアホール (高知市曙町 2-5-1)

・現地研修会 高瀬国営地すべり対策事業, トマト選果施設
ほか (高知県吾川郡)

4. テーマ 農地保全と自然災害

5. 研究集会概要

農地保全研究部会は、農地保全に関する基礎的な研究と応用

に関する総合的な研究を行うことにより、農業農村工学分野の学術・技術の振興と社会の発展に寄与することを目的としています。そこで、本年度は「農地保全と自然災害」をテーマとして、農地保全技術・研究、地震災害と復旧、業務継続計画（BCP）や地域継続計画（DCP）について、講演ならびに総合討論を行います。

6. スケジュール

・研究集会

9:30~10:00 受付

10:00~10:10 開会挨拶

10:10~10:40 講演

「高知県の農村地域での地震対策

—香南南部地区における津波避難タワー整備—

高知県農業振興部 須賀潤一

10:40~11:10 講演

「農地の津波被害と復旧に求められる農業土木の工夫」

宮城大学食産業学部 千葉克己

11:10~11:40 講演

「WEPP モデルを用いた土壌侵食と流域土砂動態の解析

—沖縄赤土流出を対象として—

宇都宮大学農学部 大澤和敏

11:40~12:10 講演

「農地の保全・整備と景観配慮」

東京大学大学院農学生命科学研究科 吉田修一郎

12:10~13:30 昼食

13:30~14:30 講演

「2016年熊本地震に伴う農地・農業用施設等の被害

—海溝型巨大地震災害との比較視点から—

農研機構農村工学研究部門 鈴木尚登

14:30~15:30 講演

「災害の世紀の農業継続戦略を考える」

徳島大学環境防災研究センター 中野 晋

15:30~15:45 休憩

15:45~16:50 総合討論

16:50~17:00 閉会挨拶

17:30~19:30 情報交換会

・現地研修会

9:00 高知駅発

10:30 大渡ダム（仁淀川町）

12:00 昼食（秋葉の宿）

13:00 高瀬国営地すべり対策事業（仁淀川町）

14:30 トマト選果施設（日高村）

15:00 村の駅（日高村）

16:10 高知駅着

17:00 高知りょうま空港着

7. 参加費および申込み

(1) 参加費 研究集会 3,000円（資料代含む）

情報交換会 5,000円

現地研修会 2,500円（昼食代を含む）

(2) 申込み・問合せ先

農地保全研究部会研究集会事務局

E-mail: NN_Nouchihozen_Sympo_Office@ml.affrc.go.jp

〒783-8502 高知県南国市物部乙200

高知大学農林海洋科学部土地保全学研究室 佐藤

TEL&FAX: 088-864-5170（直通）

(3) 申込み方法等

上記メールアドレスに、①所属、②氏名、③メールアドレス、④参加を希望する会（研究集会・情報交換会・現地研修会）、⑤参加費の振込み予定日、⑥その他（質問など）、をお送りください。事務局で参加費の振込みを確認した時点で、お申込みの完了とさせていただきます。

(4) 参加費の振込先

ゆうちょ銀行

・ゆうちょ銀行から振込みされる場合

記号 16400 番号 13111531

口座名 農業農村工学会農地保全研究部会

・他の銀行から振込みされる場合

店名 六四八（ロクヨンハチ） 店番 648

口座番号 普通 1311153

口座名 農業農村工学会農地保全研究部会

(5) 申込締切 平成28年10月31日（月）

(6) 宿泊 本研究集会では、宿泊の斡旋・手配はいたしません。各自ご対応ください。

※農地保全研究部会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/nouchihozen/>）も併せてご確認ください。

農業ワールド2016の開催について

1. 日時 平成28年10月12日（水）～14日（金）

2. 場所 幕張メッセ

3. 主催 リード エグジビション ジャパン（株）

後援 農業農村工学会ほか

4. 内容 第6回国際農業資材 EXPO, 第3回国際次世代農業 EXPO, 第1回国際6次産業化 EXPO

詳細は、農業ワールド2016ホームページをご覧ください。

<http://www.nogyoworld.jp/>